



株主の皆様へ

[第42期 中間決算報告]

平成18年4月1日～平成18年9月30日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける唯一のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等

さまざまな業種の

包装ニーズに的確に応えて

液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に

集中・特化させ、独創的なシステムを構築することにより、

トップブランドとしての

地位を築いています。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、第42期中間決算報告をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の業績

当中間会計期間におけるわが国経済は、景気の回復基調がさらに鮮明となり、企業の設備投資は高水準で推移し、雇用情勢も拡大しております。一方、原油価格の動向は依然不透明であり、原材料の価格は未だ値上げ基調が続き、予断を許さない状況であります。

当軟包装資材業界におきましても、原材料の値上げの影響は大きく、業界各社の利益確保は依然厳しい環境となっております。

このような状況のもと、当社においては、原材料、資材における厳しい値上げ要求があり、購買・調達効率化、生産の内製化・効率化を推し進め、原油高騰の影響を最小限に抑えてまいりました。

その結果、売上高は76億18百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は7億25百万円（同8.2%減）、経常利益は7億35百万円（同9.6%減）、中間純利益は4億22百万円（同11.5%減）となりました。

表紙の絵

洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。



通期の見通し

包装フィルムにつきましては、食品業界を中心に顧客ニーズに合わせた商品の提供を全面的に打ち出し、原材料価格の値上げを付加価値でカバーすると同時に、非食品分野の販売に注力し売上規模の拡大に努めてまいります。

包装機械につきましては、本年9月

に日本精機株式会社が所有する全ての権利（特許権等の開発成果、関連動産および製造技術等）を譲り受ける契約を締結したことにより、今後は開発・製造・販売・保守の全てを顧客へ提供し、包装フィルムと充填機械を併販するビジネスモデルの更なる強化を図ってまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売上高152億23百万円（前年同期比

6.2%増）、経常利益14億13百万円（同1.6%減）、当期純利益8億21百万円（同7.3%減）を見込んでおります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

代表取締役社長 **おね 登**

包装フィルム部門

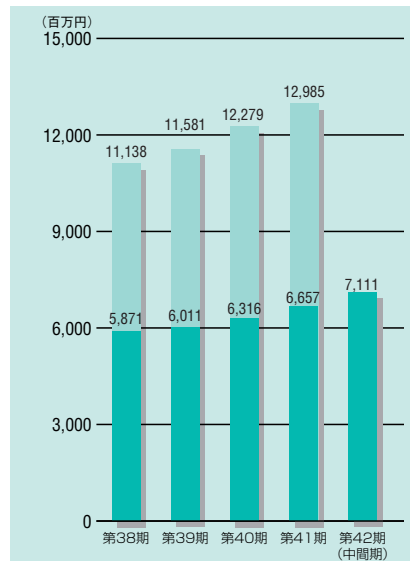
■ 事業内容

主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシングなどを入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレタリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

包装フィルム部門につきましては、期の前半から夏にかけて天候不順による影響が大きく、弁当関連や季節商品などの出荷が低調であったものの、期の後半には鍋つゆを中心とした冬物商品の出足が良く前年同期を上回りました。また、健康食品や化粧品等の非食品分野の拡大、営業所の躍進、新規顧客の深耕活動などにより、新規商品の受注も順調に推移し、売上拡大を担う核へと成長しつつあります。

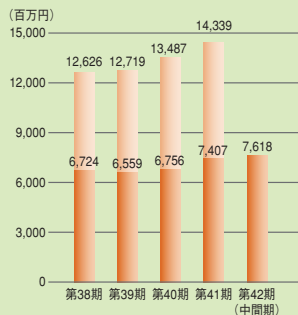
その結果、包装フィルム部門の売上高は71億11百万円（前年同期比6.8%増）となりました。

■ 包装フィルム部門売上高推移

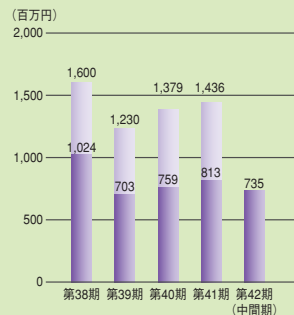


Financial Highlights 業績ハイライト

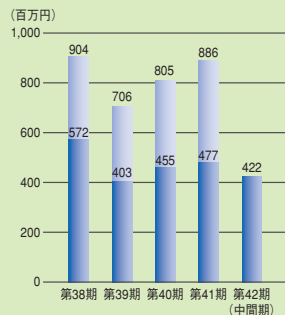
■ 売上高 (■ 中間期 ■ 通期)



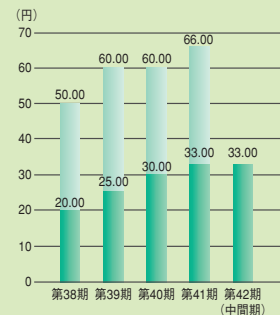
■ 経常利益 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 中間(当期)純利益 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 1株当たり配当金 (■ 中間期 ■ 通期)



包装機械部門

■ 事業内容

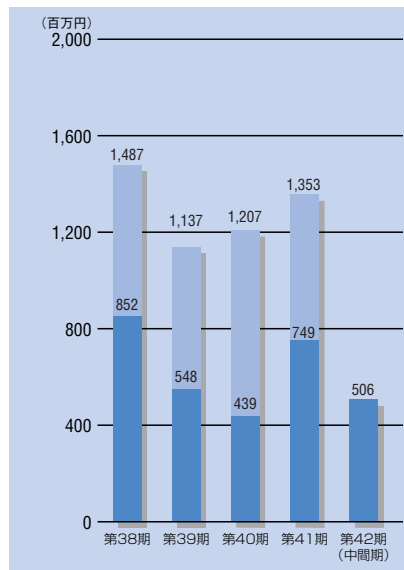
高速液体自動充填機「DANGAN」を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカーなどに販売を行っています。

充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は「DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれなどの少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パックなどの大容量専用機」などの開発・製造・販売を行っています。

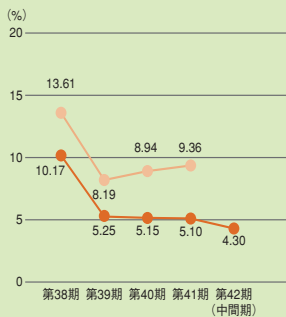
高速自動充填機「DANGAN」につきましては、大手食品メーカーを中心として受注活動は活発ではあるもの、好調であった前年同期の出荷台数を下回りました。

その結果、売上高は5億6百万円（前年同期比32.4%減）となりました。

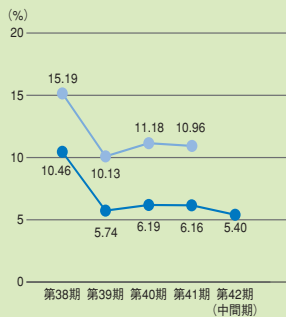
■ 包装機械部門売上高推移



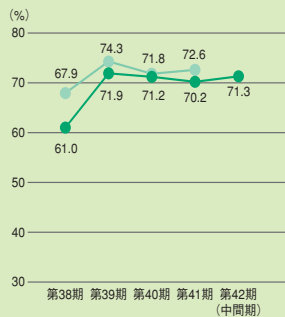
■ 自己資本当期純利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



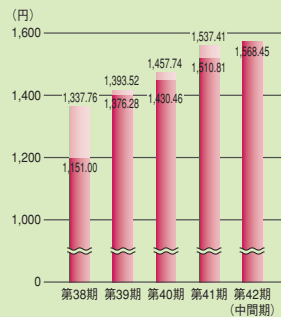
■ 総資産経常利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 自己資本比率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 1株当たり純資産 (■ 中間期 ■ 通期)



大成ラミックの資源リサイクル活動

大成ラミックはISO14001を取得し、廃棄物発生抑制のための生産システムの改善や分別排出を率先して行うことで、地球環境と共生し持続可能な社会を実現する企業としての責任を果たしています。今回は、ゼロエミッション（リサイクル率100%）の達成に向けて当社が取り組む資源リサイクル活動についてご紹介します。

大成ラミックの品質・環境方針

私たちは、主に包装用フィルムの製造販売、充填機器の販売にかかわる業務において、品質向上及び環境保全に努めるため、以下の方針に基づいた目的及び目標を設定し、全従業員によって品質向上活動、環境保全活動を推進する。

また、期毎にその達成度の確認と見直しを実施し、継続的な改善を進める。

1. 顧客満足度の高い製品とサービスを提供する。
2. 品質向上及び環境保全を配慮した設計・生産、販売活動を行う。
3. 関連法規・条例などを遵守し、環境汚染の予防と環境負荷の低減に努める。

この基本方針は、全部門、全従業員に周知徹底すると共に、一般の人にもインターネットホームページを通じ開示する。

2005年11月
ISO認証取得
ISO14001、
ISO9001同時取得



ライフサイクルアセスメントの視点

21世紀の企業には、自らの生産活動が環境に与える負荷の低減に努めるだけでなく、適切な品質環境方針を打ち出し、健全な環境の維持に対する責任を果たすことが求められています。当社の主要製品である包装用フィルムは、生産工程において多くの資源やエネルギーを活用しており、商品サイクルを環境への影響からとらえる「ライフサイク

● 2005年度 廃棄物発生比率

リサイクル

廃プラ（リサイクル）	71.8%
紙類	8.9%
廃液	8.8%
鉄くず	3.4%
廃油（インクウエス）	2.3%
汚泥	0.5%

合計 95.7%

非リサイクル

排水（アルカリ）	2.3%
動植物性残渣	0.6%
一般廃棄物	0.5%
その他	0.9%

合計 4.3%

ルアセスメント」の考え方に基づいて環境対応方針を策定し、排出する廃棄物の削減に努めています。

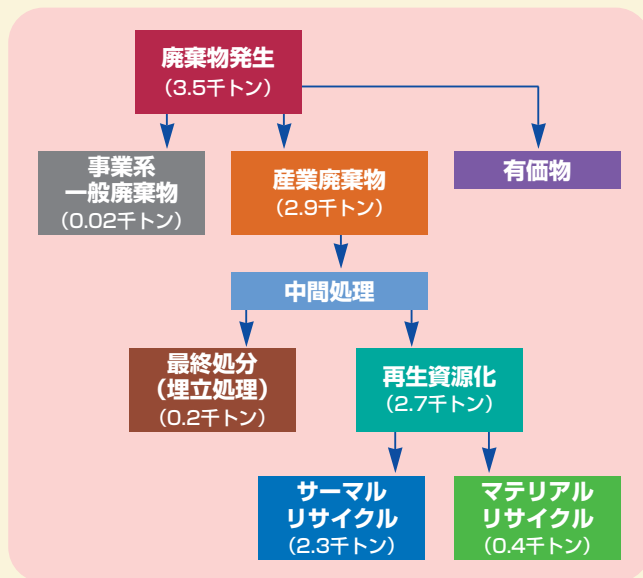
リサイクルシステムの確立

当社では、排出する廃棄物のうち、廃油、鉄くず、紙類などのリサイクル可能なものを再資源化しております。以前は発生する廃プラスチック類の大部分を焼却処理していましたが、2005年度からは分別排出の徹底や処理方法の見直しなどにより、全ての廃プラスチック類のリサイクル処理が可能になりました。

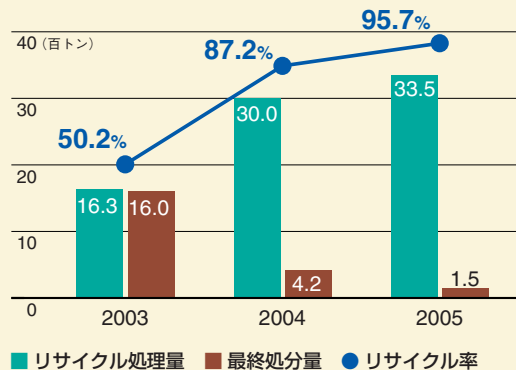
ゼロエミッションの達成に向けて

サーマルリサイクルを含めた当社の廃棄物リサイクル率は、2003年度の50%から翌2004年度には87%、2005年度には95%と着実に向上しています。今後も廃棄物処理方法の検討や資源循環システムの確立などを積極的に継続することで、最終目標であるゼロエミッション（リサイクル率100%）の達成を目指し、包装材料と社会との健全な関係をリードする企業としての役割を果たしてまいります。

● 廃棄物処理フロー



● リサイクル処理実績推移



貸借対照表 (要約)

(単位:百万円)

科目	第42期中間期	第41期中間期	第41期
	平成18年9月30日現在	平成17年9月30日現在	平成18年3月31日現在
●資産の部			
流動資産	8,790	8,560	8,344
固定資産	5,061	5,002	5,046
有形固定資産	4,366	4,385	4,414
無形固定資産	115	120	113
投資その他の資産	580	497	518
資産合計	13,852	13,563	13,390
●負債の部			
流動負債	3,777	3,881	3,458
固定負債	193	164	204
負債合計	3,970	4,045	3,663
●資本の部			
資本金	—	2,408	2,408
資本剰余金	—	2,896	2,896
利益剰余金	—	4,126	4,327
その他有価証券評価差額金	—	86	95
自己株式	—	△ 0	△ 0
資本合計	—	9,518	9,727
負債及び資本合計	—	13,563	13,390
●純資産の部			
株主資本	9,804	—	—
資本金	2,408	—	—
資本剰余金	2,896	—	—
利益剰余金	4,499	—	—
自己株式	△ 0	—	—
評価・換算差額等	76	—	—
純資産合計	9,881	—	—
負債及び純資産合計	13,852	—	—

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

有形固定資産

本年7月に物流の効率化を目的として、本社隣接地の土地を取得いたしました。

損益計算書 (要約)

(単位:百万円)

科目	第42期中間期	第41期中間期	第41期
	平成18年4月1日から平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から平成17年9月30日まで	平成17年4月1日から平成18年3月31日まで
売上高	7,618	7,407	14,339
売上原価	5,787	5,577	10,892
売上総利益	1,830	1,829	3,447
販売費及び一般管理費	1,105	1,038	2,029
営業利益	725	790	1,417
営業外収益	12	26	25
営業外費用	3	4	6
経常利益	735	813	1,436
特別利益	2	—	90
特別損失	6	5	13
税引前中間(当期)純利益	731	807	1,513
法人税、住民税及び事業税	326	348	617
法人税等調整額	△ 17	△ 18	10
中間(当期)純利益	422	477	886
前期繰越利益	—	123	123
中間配当額	—	—	207
中間(当期)未処分利益	—	601	802

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

未払金

本社新工場第3期生産設備の稼働により、生産設備代金の支払いが行われ、未払金は減少いたしました。

中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第42期中間期	第41期中間期	第41期
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 126	748	1,641
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 268	△ 264	△ 930
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 207	△ 188	△ 396
現金及び現金同等物の増加額(減少額)△	△ 602	295	314
現金及び現金同等物の期首残高	1,860	1,546	1,546
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	1,258	1,841	1,860

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間期末が金融機関の休日にあたり、売上債権の増加額11億15百万円等があったものの、税引前中間純利益が7億31百万円、減価償却費2億62百万円等によるものであります。

ここがポイント!

投資活動によるキャッシュ・フロー

本社新工場生産設備等の有形固定資産取得1億18百万円、本社隣接地の土地取得73百万円、開発成果等の譲受契約締結89百万円の支出によるものであります。

ここがポイント!

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額2億7百万円の支出によるものであります。

中間株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当中間期 平成18年4月1日から平成18年9月30日まで	株主資本								自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金								
		資本 準備金	利益準備金	その他利益剰余金								
		買換資産圧縮 積立金	特別償却 準備金	保険差益圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金						
平成18年3月31日残高	2,408	2,896	165	25	25	—	3,310	802	△0	9,632	95	9,727
中間会計期間中の変動額												
剰余金の配当								△ 207		△ 207		△ 207
利益処分による役員賞与								△ 42		△ 42		△ 42
中間純利益								422		422		422
任意積立金の積立					6	46	350	△ 402		—		—
任意積立金の取崩				△ 2	△ 6			8		—		—
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)										—	△ 19	△ 19
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	△ 2	0	46	350	△ 222	—	172	△ 19	153
平成18年9月30日残高	2,408	2,896	165	23	25	46	3,660	579	△0	9,804	76	9,881

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

opics

当中間期のトピックス

TOPICS

東京パック2006 新製品「アンプルカット®」を出展

当社は、簡単に開封でき、液だれを起こさずスムーズに注げる新型液体小袋「アンプルカット®」を開発し、『東京国際包装展・東京パック2006』（10月3日～7日・東京ビッグサイト）に出展いたしました。

注ぎ出しがスムーズで必要なところにしょう油・ソースなどがかけられるアンプルカットは、新しいスタイルの提案として、今回の包装展テーマ“明日のために～いま包装にできること～”にも合致。総入場者数20万人を超えた来場者からの熱い注目を集めました。



開封しやすく、注ぎやすい『アンプルカット®』



東京パック2006会場



アンプルカット サンプル

■ 会社概要 (平成18年9月30日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 登

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズ、高速液体自動充填機「NT-DANGAN」および周辺機器の開発・製造・販売

従 業 員 数 317 (男子273名 女子44名)ほか
臨時従業員78名

主 な 事 業 所 本社・工場 (埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 札幌、東北、仙台、名古屋、大阪、福岡

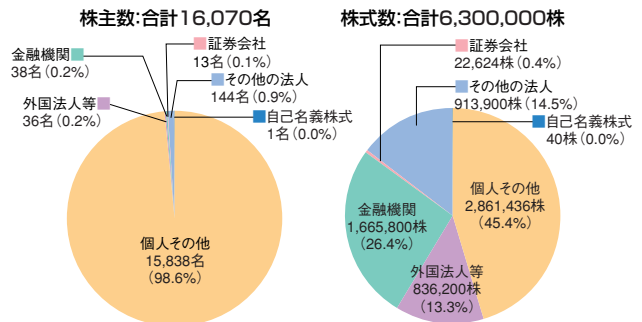
■ 役員一覧 (平成18年9月30日現在)

代表取締役社長	木 村 登
専務取締役 (管理本部長)	木 村 義 成
常務取締役 (R&D本部長)	二 瀬 克 規
取締役 (営業本部長)	村 山 淳 司
取締役 (営業本部副本部長)	古 村 博
取締役 (生産本部長)	山 口 政 春
常勤監査役	里 村 睦 男
常勤監査役	裁 松 修
監査役	山 本 実
監査役	三 浦 芳 治

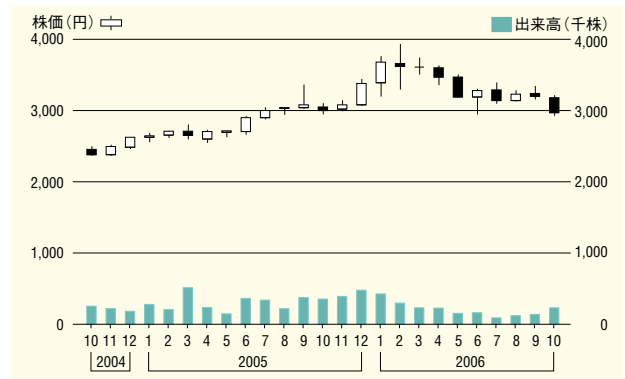
■ 株式状況 (平成18年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 20,000,000株
- 発行済株式総数 6,300,000株
- 株 主 数 16,070名

■ 所有者別株式分布 (平成18年9月30日現在)



■ 株価 / 出来高の推移



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 (http://www.lamick.co.jp)
上場証券取引所	東京証券取引所

株主優待のお知らせ

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

毎年、3月31日または9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」をお届けいたします。

なお、今回は11月下旬に発送いたしました。



今回送付の食品詰合せ写真



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い変えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

社 名 **大成ラミック株式会社 (Taisei Lamick Co.,Ltd.)**
所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

●本中間決算報告は、100%再生紙を使用しています。